

われわれの考察したスコアリングによる 排泄自立度の評価

静岡赤十字病院 7-2病棟

下山 美穂 早房 有紀 松崎 恵

静岡赤十字病院 脳神経外科

安心院 康彦

要旨：排泄自立度を評価するために6段階のスコアリングを作成した。このスコアリングを用いて脳疾患患者のリハビリ開始前後の排泄自立度を比較し、有意差が認められた。このことは直ちにわれわれのスコアリングの信頼性を示すことにはつながらないが、今後の排泄自立度のスコアリング化を進めて、患者の機能回復度を評価していく上で、ひとつの指標になりうると考えられた。

Key word：排泄自立度スコアリング

I. 目的

われわれの考案したスコアリングを用いて、脳疾患患者の急性期におけるリハビリテーション（訓練室での理学療法士による機能回復訓練）開始前後の排泄自立度を評価し、我々のスコアリングが有用であるか否かを検討する。

II. 方法

排泄自立度を評価するために6段階のスコアリングを作成した：①ベッド上排泄②ベッドサイドポータブルトイレ③車椅子トイレ④1名介助による車椅子トイレ⑤監視下での車椅子トイレ⑥完全に自立。このスコアリングを用いてリハビリ開始直前と、開始1週間後の排泄自立度を比較する。

III. 対象

平成14年5月～7月の期間にリハビリテーション（以下リハビリとする）が開始された当病棟入院中で発症後3週間以内の脳疾患急性期患者23名である。

IV. 結果

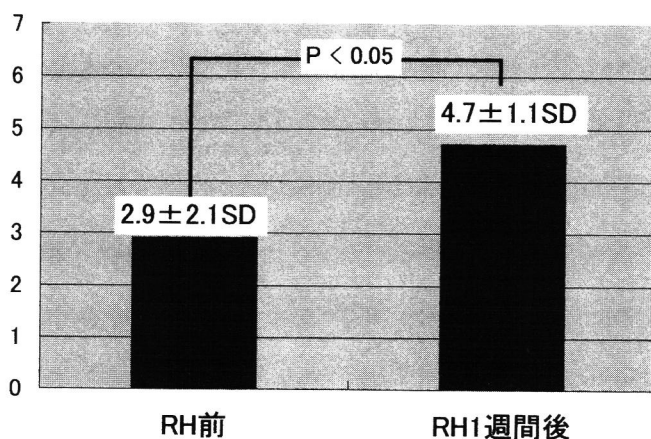
リハビリ開始直前の排泄自立度スコア

リングの平均は2.9(SD 2.1)であった。次にリハビリ開始1週間後の平均は4.7(SD 1.1)であった。両者には有意差（ $P < 0.05$ ）が認められた（図1）。

V. 考察

一般に看護師の業務において、排泄ケアは、脳神経外科・神経内科における患者管理の重要な要素である¹⁾。必然的にリハビリの進行度により、看護師の排泄ケアには差が生じる。しかしながら、患者の機

RH前後における排泄自立度の変化



n = 23

図1

能改善度に即した排泄自立度の客観的な評価方法は現在までに作成されていない。排泄ケアは患者にとっては入院生活における日常動作の一部であり、看護師にとっては1日のうちに繰り返し行う重要な業務である。さらに患者は平行して神経学的機能障害に対してリハビリを行っている^{2,3)}。従って、この排泄という患者の日常動作を自立度の視点で点数化し比較、評価できれば、病棟における患者の日常動作によりリハビリの進行状況を間接的に把握できることになる。そこでわれわれは独自に考案した排泄自立度のスコアリング化を脳疾患急性期患者23名のリハビリ前後に試み、有意に改善しているとの結果を得た。このことは直ちに我々のスコアリングの信頼性を示すことにはつながらないが、今後の排泄自立度のスコアリング化を進めて、患者の機能回復度を評価していく上で、一つの指標になりうると考えられた。

VI. 結 語

我々の考案したスコアリングは急性期脳疾患患者の排泄自立度の評価に有用と考えられた。

文 献

- 1) 榊原隆次, 服部孝道, 内山智之. 脳神経疾患急性期からのリハビリテーション看護. ブレインナーシング 1999; 春季増刊: 58-75.
- 2) 石川 誠. 患者さんの心をつかむ5 リハビリテーションの意欲を引き出す. ブレインナーシング 2001; 17(5): 445-451.
- 3) 渡部一郎, 真野行生, 和島早苗ほか. 脳卒中ナーシングマニュアル. ブレインナーシング 1999; 春季増刊: 225-275.

New Scoring for Evaluation Self-support in Excretion of Ward Patients with Acute Phase of Cerebrovascular Disease

Miho Shimoyama, Yuki Hayabusa, Megu Matuzaki
7-2 ward, Shizuoka Red Cross Hospital

Yasuhiko Ajimi
Department of Neurosurgery, Shizuoka Red Cross Hospital

Abstract : We devised a new scoring of evaluation self-support of ward patients on excretion as one of daily behaviors. Our new scoring was classified into six steps according to nurses effort to assist patient's excretion. We compared each score between before and after rehabilitation in patients with acute phase of cerebrovascular disease. The results demonstrated significant difference between before and after rehabilitation. Although these results may not directly reflect usefulness of our scoring, it is possible that this scoring will become a convenient index for functional recovery of ward patients.

Key word : cerebrovascular disease, ward patient, excretion, scoring, rehabilitation,



連絡先：下山美穂；静岡赤十字病院 7-2 病棟

〒420-0853 静岡市追手町 8-2 TEL (054)254-4311